

## 講演会を開催



協豊会関東地区では2016年度の最後となる第4回目のグループ活動を、2月3日(金)の午後からトヨタ自動車・東京本社の大会議室を会場にして開催しました。

当日は、ご来賓にトヨタ自動車からEV事業企画室の豊島CE様、国内販売店部 地域・経営室の大野GM様と野田様、そして協豊会事務局の大村局長をお迎えし、関東地区会員会社からの44社に加えて東海・関西地区からのご参加もあり、総勢56名での開催となりました。

先ず開会にあたり、会を代表して関東地区 永井総務運営委員長よりご挨拶と関東地区の今年度活動状況として、地区主催行事や講演会等の開催報告が行なわれました。

続いて、豊島CE様から、日本を取り巻くエネルギー事情、及びクルマを取り巻く環境を踏まえた新たな「トヨタの環境車戦略」として、「脱石油を視野に入れた『FCV・PHV・EV』の適材適所の考え方でのクルマづくり」について、プレゼンテーションをして頂きました。

豊島CE様の大変分かりやすいお話で、出席メンバーは、環境車の視点からトヨタさんのいいクルマづくりについて改めて理解を深めることが出来ました。



【永井総務運営委員長】



【トヨタ自動車の豊島CE様】

豊島CE様からのお話の後、異業種における「水素エネルギー社会の実現」に向けた取り組みを知る企画として、鉄道総合技術研究所 水素・エネルギー研究室室長の長谷川 均様を講師にお迎えし、『水素エネルギー社会と鉄道車両（燃料電池電車の開発）』をテーマにした講演会を開催いたしました。



【熱心に聴講する出席メンバー】



【鉄道総研の長谷川様】

長谷川様からは、鉄道における環境負荷の状況、水素エネルギーの鉄道への適用、液体水素の利用と燃料電池の劣化、等についてご説明を頂き、その将来に向けた可能性と課題についてもお話を頂きました。

出席者から長谷川様には、燃料電池電車の想定される市場規模や、クルマと鉄道との水素ステーションの共用の可能性についての質問が出され、クルマ以外でも水素エネルギー社会の実現に向けたものづくりが進められていることを頼もしく、心強く感じ取れる機会となりました。

講演会の後、今年度のグループ活動計画が全て無事に終了したことから、ご来賓にもご参加いただいたの慰労を兼ねた懇親会を開催し、会員相互やトヨタさんとの交流を一層深めることができました。